

これでいいのか女性禁制大峯山

先日、女子4名、男子1名で、熊野奥駆道・山上ヶ岳（大峯山）に佐和又山から上った。

大普賢岳を越えて、阿弥陀ヶ森分岐に関所を彷彿とさせる黒い大きな「女人結界門」があった。傍らに「登山者へお願い」のやはり大きな立看板があった。

看板は「女人禁制」の趣旨を書いてあった。内容は、伝統・伝承・慣習・宗教文化で女人結界の維持に協力を賜りたいと結んであった。しかし、女性が禁制を納得できる説明はなかった。

今回の登山で実際はどうかの検証登山でもあった。

結果、頂上下で寺関係者に呼び止められ、罵詈雑言の雨嵐だった。（祟りがあるぞ・罰が当たるぞ・リーダーの男は、それでも日本男子か等々）

這う這うの体で下山し、五番関の西の結界外に出た。

そこで見たものは、結界門の「女」が剥がされ、立看板の「女性」、英文の「WO」（ウーマン）が削られていて、女性の怒りを感じた。

かつて日本の数多くの場所で女人禁制があった。

しかし、高野山さえ1906年、明治39年、女人禁制は撤廃された。

国際的な世界遺産でもある大峯山が未だ全面女人禁制とは理解し難い。

かつて女性の反対運動もあった。

今後は全面禁制でなく、年に何回か女性が登山出来るなどの措置が望ましい。

〒411-0943

静岡県駿東郡長泉町下土狩1541-12

宮間原 忍（匿名希望）

無職

70歳

055-986~6075

